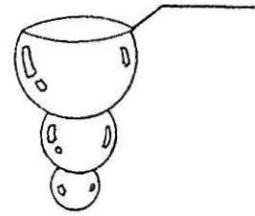


シャボン玉のすべり台



2重のシャボン玉



シャボン玉のいも虫

④ いろいろなシャボン玉③

液ができたなら、ストローやコップでノズルを作り、小さなシャボン玉や大きなシャボン玉など飛ばしてみましょ。また、2本の針金のレールでシャボン玉をすべらせたり、2重や3重のシャボン玉を作ったり、シャボン玉のいも虫やその変形のぶどうなど、工夫すればいろいろなシャボン玉を作れます。この時、容器やノズルはシャボン液で濡らしておくとお割れる心配はありません。

④ シャボン玉の観察①

シャボン玉をさらにのせて観察してみると、色づいた表面が流動している様子が見えます。しばらく静かにしておくと、青、黄、紫、赤などの色がしま模様にならぶようになります。やがて、頂上が色のつかない黒い膜になって、それがだんだんと広がっていきます。この黒い膜は、いちばんうすい膜で $4\frac{5}{1000}$ マイクロンしかないことが分かっています。一度、この様子を自分の目でじっくり観察してみませんか。ニュートンになった気分で。 (H. Kuroda)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒939)

電話 富山 (0764) 91-2123 (代表)

昭和62年 8月 / 日 発行